

# 亡びゆく神戸電鉄沿線の植物

若山治男



近年神戸市の住宅建設計画は、東も西も行詰り状態となり、北方、すなわち神戸電鉄の沿線開発が叫ばれつつ開発が進められている。

鈴蘭台、山の街、大池などへ大きな団地ができる。4年前の初夏の車窓は目が痛いほど緑がしみ込んで来たものだが、今は緑は遠くなりについでである。私は神戸電鉄の沿線である長田駅付近に住んでいて、暇があると沿線の植物を調べて歩いているが、開発が進むのと比例して植物が亡んで行くので淋しく思われる。

以下、各地区ごとに亡びつつある植物を列記してみた。私の家の裏はすぐ山になっていて、秋になると県花“のじぎく”が一面に咲く。これは姫路の大塩より移植したものであるが毎年少しずつ繁茂していくのが楽しみである。丸山逆断層の東側山麓にはシマカンギクが群生していたが、ほとんど減ってしまった。鶴越駅の東は以前山であって春にはフデリンドウがたくさん咲いていたものだが、今はすっかり街と変った。

菊水山駅の東側は、以前は秋ススキの穂とともにハギが点々と咲いていたが、現在ゴルフ場となり、今はあとかたもない。西側一帯は岩山でコバノミツバツツジの大群落で、春の色どりを皆様もご存じのことと思いますが庭木にもなり業者が採りつくしたか、ほとんど見られなくなった。駅の真下の鳥原貯水池に入る川も水泳ができたほどきれいな流れであったが、上流方面に住宅が出来、洗剤が入り込み、今はあぶくが一杯だ。

また市の下水道工事がこの沿線西側に進められ、山は切りくずされ非常な荒れ方だ。鈴蘭台西口、つまり藍那、木津方面は初夏にはどこからともなく、むせるようなササユリの香が風に乗って来たし、谷間にカキラン、すなわちスズランが咲いていたものだが、今は立派な街となっている。緑が丘ゴルフ場を取りまく溝にはニワセキショウが可愛らしい花を咲かせていたが、道が舗装されてこの植物も見られなくなった。

広野ゴルフ場前駅より北西の田の畔にはコモウセンゴケが自生していたが、市営住宅が建ち、亡びてしまった。そこより西に灌漑用水路の堤にはインモチソウやモウセンゴケが自生しているが、この水路が無くならないかぎりには亡ばないだろう。一方、三田線の山の街付近の鉄道の両側にはリンドウやカワラナデシコが美しく咲いていたが、複線工事でいまはなくなった。

箕谷駅より西衝原への道で「ガキノノド」と呼ばれる所があり、その南側は岩山になっており岩壁には可愛らしいヒナランやダイヤモンドソウが自生していたが、道路拡張工事でこの岩山をダイナマイトで爆破してしまい、今はあとかたもなく、これ等の植物も滅亡してしまい、わずかに爆破をまぬがれた上方に数株のクモキリソウやハカタンダが残っている。またこれより少し西よりに山の街へ出る道があり田の畔のヒガンバナとともに用水池の堤に花茎が数本も出て美しく可愛らしいウメバチソウが咲く。10センチほどの丈で株立ちする。堤一面に真白く咲いているのは美しいもので、先日行ってみたらいつの間にか農家が建っていた。

谷上より東六甲の裏側双子山付近の雑木、また竹藪にはエビネがかなり自生している。数株ぐらいで群落を作っているが、これは普通藪エビネと呼ばれているもので外弁茶褐で舌は桃色がかかったものである。駅の西側に兵庫カンリーのゴルフ場へ行く道がある。その道の途中にエビネの自生地があり、私は毎年花時には見に来るのを楽しみにしていた。今年も、もうそろそろ花の時期であろうと思いついて来たところ、自生地付近をショベルローダーが盛んにダンプカーに土を運んでいる。整地してしまいもうなにもない。ここのエビネはヤブエビネ系に属するが、伊勢の朝熊山のとよく似ており、外弁は緑色で舌は純白ですがすがしい感じのする美しいエビネであったのに、私は泣きたいような気持ちである。ちょっと行かない間にどんどん開発されて、このように残しておきたい可愛らしい草花は滅亡していくのである。ここより約300mほど先に、私がいつも採集しているミズゴケの自生地がある。小川の岸にはジュンジュギクが可愛らしく咲く自生地があるが、高木や雑木が最近伐採されて、ここでもゴルフ場作りで次第に滅亡してゆくだろう。

谷上より大池への途中、裏六甲山麓にはオウレンの群生地があったが、山田川の砂防堰堤工事のため、ブルト

(以下p. 328へ)

(以下 p. 270より)

ーザーが資材運搬道路を作り自生箇所<sup>フ</sup>を踏にじってしまい、わずかに少数が残っているにすぎない。谷上より大池の聖天さんに出る西側のコースがある。そのコースにある焼けた谷上の千年家の横道より山に入る。頂上付近にはセンブリがたくさん自生している雑木林の下にはイチヤクソウ、シュンランがある。このコースの中間に湿地帯が2カ所ほどあり、ミヅゴケ、トキソウ、ウメバチソウ、モウセンゴケなどが自生していたが埋立てられてしまった。

こうして自然の植物は、開発されるにしたがいでだんだん亡んでいくのは残念である。有馬口の東側に逢山峡と呼ばれている景色のよいコースがあり、ハイカーの憩の場所として必ずここで一服する。こんこんと冷たい清水が湧き出る場所がある。この水を人々は金明水と呼んでいる。また、近くで砂防工事のため飯場が近くに出来て太い鉄管を憩の場所としている湧水に差込んで飯場へ引き込んでしまい、今は一滴も出なくなった。このあたりはエビネもたくさんあったが全滅になってしまった。こ

こより六甲登山道に出るコースで石橋を渡るとある。途中にはフタリシズカの群落があるが、未だ健在であるのはうれしい。

憩の場所より少し上手<sup>カミテ</sup>の左側樹林下にはオウレンの群生地がある。春の花時に行くと、ここだけ霜が降りたように真白になり開花の状態は美事である。丈は30~40センチにもなり、これほどの群落のある六甲山系の山では私は未だ知らない。開発の手がいつここにのびるか心配で、今のうちに少しでも他へ移植しておきたい。有馬口より橋を西側に渡ると三田へ行く道路の左右に大きな竹藪があるが、稗が布袋さんの腹のように膨れるホテイチクの藪で、お隣りのモウソウチクの中まで進入しており、ほっておけば全部このホテイチクになってしまうであろう。

このように神戸電鉄の沿線は次第に自然の姿が消え住宅と変りつつあり、滅亡していく植物も年ごとに多くなる。緑は沿線より次第に遠ざかって行くの状況のお知らせまで。

## 兵庫生物、投稿者の印刷費補助の件について

本誌は限られた会費でより多くの人の研究論文を載せるために、従来3ページまでは無料、それ以上は1ページごとに1,000円の負担金をお願いしていましたが、印刷費の高騰のために到底まかないきれなくなりました。それで次号から3ページまでは無料とし、超過1ページごとに1,500円とする原案を理事会へ提出し、第21回総会で承認を得たいと思います。

(編集子)